

建設現場における女性目線での職場環境整備

清水建設株式会社	正会員	○伏見	みや子
清水建設株式会社	正会員	福井	真二
清水建設株式会社	正会員	西岡	真帆

1. はじめに

2010年4月に入社し、土木の内勤業務を約4年経験した後、2014年5月から現在の工事現場で施工管理を担当している。現場で働いていると作業員の方や地元の方から「女性の監督さんなんて初めて見た」と驚かれることや、「大変でしょ」と気遣われることもあるが、特に大変だと感じたことはない。なぜなら会社の取り組みや現場の努力により、女性が現場で働きやすいような環境が徐々に整えられているからである。

全産業における女性就業者の割合が約40%であるのに対し、建設業界における女性技術者・技能者の割合は、就業者全体のわずか3%程度に留まっている。これは、これまでの建設現場は、かつて3Kと言われた「きつい・汚い・危険」というイメージが強く、男性主体の職場と捉えられてきたからだと思う。そのため、女性専用の更衣室がない、トイレは男女共同、時にはトイレすらないことが当たり前であった。

ところが近年、私自身もそうであったように、ものづくりに興味を持ち、建設業界へ足を踏み入れる女性が増えてきている。建設業界への女性進出をさらに促すためには、従来の男性主体の職場環境を女性目線で見直すことにより、女性と男性が肩を並べてストレス無く働ける環境の整備が急務となっている。

2. 安全保護具の改良

当社では、現場で働く女性の声を反映し、安全保護具の改良を行なっている。作業服については当初、男性用サイズをそのまま小さくして女性用としていたが、「上着のポケットが小さく、手帳が入らない」などの声があり、手帳がスムーズに出し入れできるように改良が施された（写真-1）。これまで、日に何度も使用する手帳の出し入れのしづらさにわずらわしさを感じていたが、改良された上着を着用すると出し入れがスムーズになり、小さなことだが日々のストレスが軽減された。



写真-1 上着ポケットの改良

ほかにも、かがんだ時にシャツの裾がズボンから出ないように裾の長さを変更された（写真-2）。ズボンの改良については、裏地が追加され、ウエスト部分がゴムからサイズ調整可能なアジャスターへ変更された（写真-3）。また、安全帯の軽量化やヘルメットのサイズ変更・クッションの改善など、実際に身につける女性社員の意見を吸い上げながら、改良が重ねられている。



写真-2 シャツの裾の改良

3. 現場での取り組み

当現場では、協力業者の作業員の方を含む女性7名で「北上レディース連合」というチームを結成し、日本建設業連合会のけんせつ小町工事チームに登録している。チームメンバーで交流の場を設け、よくよく話を聞いてみると、女性作業員の方たちは、現在の職場環境について不満を持ちつつも、言い出せずにいることが分かった。



写真-3 ズボンの改良

そこで、チームメンバーの意見をもとに、まず女性専用の仮設トイレ

キーワード 建設現場, 女性活躍推進, 職場環境整備,

連絡先 〒920-0863 石川県金沢市玉川町 5-15 清水建設株式会社 北陸支店 土木部 TEL 076-220-5590

を設置した. このトイレは、屋外の作業ヤード各所に男性専用トイレとは距離を置き、さらに目隠しを設けたほか、生理用品を捨てやすいように可愛い柄のペーパーバッグを設置している（写真-4）。



写真-4 屋外仮設トイレの目隠しと女性専用トイレの設置

また、女性作業員の方が利用できる更衣室がないという問題点に気づき、女性専用の更衣室も設置した。更衣室はエアコン付き、畳張りとするこで、着替えだけでなく休憩にも使用できるようにした。車中で着替えを行っていた女性作業員の方から、大変ありがたいとの声を受けている（写真-5）。

さらに、現場内の掲示物を女性目線で整備することにより安全衛生情報のきめ細やかな「見える化」に努めている。例えば、現場内のトイレや更衣室などの案内表示を各所に掲示することにより、初めて現場を訪れる人にも一目で分かるように心がけている。また、重機使用上の注意喚起や各種ルールなどに関して、明るい色使いやイラスト、写真を盛り込んだ掲示物を作成することにより、ルールを明確に示し、順守してもらえるように尽力している（写真-6）。



写真-5 女性専用更衣室の設置

これらのチームの活動状況について社内研修会で紹介したところ、他現場から当現場で作成した掲示物を使用したいという申し入れがあり、活動を広く認識してもらい、水平展開できる良い機会となった。

昨年12月には、全国放送のテレビ取材を受けた。建設業界における女性活躍推進の取り組みを紹介するという企画で、建設現場で働く女性技術者や女性技能者が沢山いること、建設現場において女性が活躍できる職場環境を整備していることをアピールすることができたと思う。

今後も、各種媒体による広報を積極的に行い、建設業界への女性進出を促すきっかけとなることを期待している。

4. まとめ

女性が働きやすい環境をつくるためには、前述のような施設・設備などのハード面はもちろんのこと、今後はソフト面での整備も重要となってくる。大切なのは、男性と女性がそれぞれの特性の違いを知り、互いを理解し尊重し合うことであり、まずは双方の意識改革が課題だと言える。

今後も女性目線で、女性だけでなく誰もが働きやすい現場環境づくりを目指していきたいと考えている。



写真-6 安全衛生情報の「見える化」